

## ⑨【畜産】経営安定化のため、飼養頭数を拡大！

渡辺秀幸（わたなべしゅうこう）さんは、飼養再開から5年で現在の55頭（親牛32頭・子牛23頭）規模まで飼養頭数を回復しています。これまで町や県等の支援事業を活用させていただき、目標とする飼養頭数に近づきつつあります。今後も耕畜連携を図りながら、さらに飼養頭数を増やし、経営の安定化を図り、畜産経営にチャレンジする後継者や新しい仲間が増えることを期待しています。



飼養管理等について説明する秀幸さん



カメラ目線で撮影させてくれた黒毛和牛

## ⑩【畜産】頭数を拡大し、堅実な経営を目指す！

松本博之（まつもとひろゆき）さんは、今春から飼養管理をスタートし、現在20頭を飼養しています。飼養頭数は、将来的に55頭（親牛30頭・子牛25頭）規模まで拡大したい考えです。できるだけ早く檜葉町に戻り、分娩・子牛育成舎等を早急に整備し、飼養環境を整える計画です。

「堅実な畜産経営を目指しつつ、着実に飼養頭数が増えるよう取り組みたい！」とおっしゃっていました。



思い描く将来のイメージを説明



運動場で身を寄せ合う黒毛和牛



生育良好！肥大に期待！（8月27日撮影）

## 「ならSUNフェス2021開催！」

日時：令和3年10月30日（10:00～14:00）

場所：みんなの交流館ならはCANvas  
檜葉町大字北田字中満

内容：農産物品評会・焼き芋や鮎の塩焼き等

発行日 令和3年10月  
発行 福島県檜葉町  
編集 檜葉町産業振興課  
〒979-0696

笑顔とチャレンジがあふれるまち ならは  
～住み続けたい町の実現に向けて～

福島県双葉郡檜葉町大字北田字鐘突堂5-6  
TEL：0240-23-6104 FAX：0240-25-1234



チャレンジ農業！次のステージへ！

# 営農情報 ならは 13

檜葉町産業振興課

昨年に引き続き、町長が農業者との意見交換を実施しました！

- |             |               |
|-------------|---------------|
| ①【畜産】志賀正典さん | ⑥【タラノメ】北田復興組合 |
| ②【甘藷】猪狩義久さん | ⑦【水稻】松本清淳さん   |
| ③【花き】佐藤修一さん | ⑧【水稻】高原哲三さん   |
| ④【野菜】大山伸一さん | ⑨【畜産】渡辺秀幸さん   |
| ⑤【水稻】猪狩信康さん | ⑩【畜産】松本博之さん   |
- （※訪問順に掲載）



## ①【畜産】町に定住し、繁殖経営に邁進します！

志賀正典（しがまさのり）さんは、大熊町で畜産と果樹（梨）栽培を行っていましたが平成28年から畜舎整備を進め、飼養再開の準備を進めてきました。現在は、37頭（親牛25頭、うち肥育牛4頭・子牛12頭）を飼養しています。去年は、肥育牛に取り組んだところ「A5ランク」の最上級の牛肉になりました。また、「足腰の丈夫な牛を育てたいこともあり、放牧できる環境があれば理想的です。」とおっしゃっていました。



管理の行き届いた牛舎で説明する志賀さん



毛艶の良い子牛 ※全頭耳標装着

## ②【甘藷】規模拡大と地産地消を目指します！

猪狩義久（いがりよしひさ）さんは、現在、水稻や野菜等を栽培しています。水稻は、地域の仲間とともに有機栽培に向けて取り組んでおり、甘藷は今年度から作付けしたほか、野菜は有機質肥料で栽培し直売所等で販売しています。令和元年からアップルキウイや葡萄を植栽したこともあり、収穫が楽しみとのこと。今後は、農産物の販路を拡大し、野菜や果物の販売先を複数確保していく方針です。



有機野菜の地産地消を目指します！



四季折々の野菜を栽培しています！



### ③【花き】消費者に喜ばれる花を育てたい！

佐藤修一（さとうしゅういち）さんは、平成28年から花き栽培を始め、トルコギキョウを中心にストックやスターチスを栽培しています。花きは、天候に大きく左右されることから勉強の連続で、町内の花き生産者と情報を共有しながら栽培技術を高めています。

価格は、一時期より回復傾向となっており、高品質なものは、市場評価が高く適正に取引されています。



天候に左右されるので勉強の連続です。

順調に生育しているスターチス

### ⑥【タラノメ】町の特産品にしたい！

北田復興組合は、平成30年まで農地の草刈りや耕起作業等、農地の保安全管理を担ってきました。令和元年に補助事業を活用し、タラノメの水耕栽培用のパイプハウスを整備し、昨春から出荷を始めています。「地力不足を改善するために有機質肥料を散布し、土づくりを行いたい。そして、栽培面積を150アール規模に拡大し、タラノメを町の特産品にしたい！」とおっしゃっていました。



生育状況について説明する山内さん



有機肥料を漉き込み土づくりから実践

### ④【野菜】農産物直売所をオープンさせたい！

大山伸一（おおやましんいち）さんは、四季折々の野菜を栽培し、道の駅ならば物産館に野菜を出荷しています。安定的に出荷するため、多品目の野菜をハウスや露地で栽培しています。トマトは、品種にもこだわり数種類栽培しています。また、甘藷やアスパラガス等、新たな品目にもチャレンジしています。ほ場内に建てた農産物直売所で収穫した新鮮野菜を一日も早くご賞味いただきたいです。



農地内に整備したエアコン完備の直売所



補助事業で整備したトマト用のハウス



栽培に関する知識と作業技術を高めたい



試行錯誤しながら3年目の米づくり

### ⑦【水稲】品質向上と規模拡大を図りたい！

松本清淳（まつもとせいじゅん）さんは、現在、約1.2haの水田で水稲栽培を行っており、3年目の秋を迎えます。試行錯誤の連続で、県普及所やJA等のサポートを受け、諸課題を解決しながら農作業を行っています。代掻き（均平）の技術面で課題が残ったことから来年は、水田の均平化事業を活用して、農薬の防除効果を高めつつ、品質と収量アップに取り組みたい！と営農意欲にあふれていました。

### ⑤【水稲】作付面積の拡大と品質の向上！

猪狩信康（いがりのぶやす）さんは、水稲受託組合を組織し、酒米の「夢の香」や福島県のオリジナル品種「福笑い」等、約12ha作付けしています。昨年からは檜葉町甘藷生産部会に加入し、甘藷栽培にもチャレンジ。また、小学5年生の米作りの授業で講師を依頼され、子どもたちに農業の素晴らしさや楽しさもお伝えしています。さらに、農業委員や消防団への加入等、地域活動にも積極的に取り組んでいます。



水稲の生育状況等について説明する信康さん



黄金色の稲穂と手入れされたトラクター

### ⑧【水稲】農業体験で、若者を受け入れたい！

高原哲三（たかはらてつぞう）さんは、農業者支援事業を活用し、水稲やイチジクの栽培に必要な機械等を導入しました。水稲を約1ha作付けし、イチジクはパイプハウス5棟で栽培中です。甘藷生産部会に加入し、今年は甘藷を40a作付け。パイプハウスの間にオリーブを栽培する等、工夫しながら多様な農産物を栽培しています。「農業体験等を通して後継者の育成に取り組みたい！」とおっしゃっていました。



イチジク栽培専用のパイプハウス



今後の営農目標等について話す高原さん